

リーディングDXスクール事業【実践事例】

海南市立亀川中学校

【取組内容】情報活用能力育成のための包括的アプローチ①

□カリキュラムの統合

- ・ **事例:** 各教科の授業に情報リテラシーの要素を組み込んだ。例えば、国語の授業で情報の信憑性を判断する方法を学び、社会の授業でデータ分析のスキルを養うなど、教科横断的なアプローチを採用した。
- ・ **目的:** 生徒が多角的に情報を活用できるようにする。これにより、各教科で学んだ情報リテラシーのスキルを総合的に活用し、実生活での問題解決に役立てることができると考える。

□教員の研修

- ・ **事例:** 教員が最新の情報技術や情報リテラシー教育の方法を理解し、実践できるようにするための研修を定期的に行った。例えば、ワークショップ形式での研修や、外部講師を招いた現職教育を開催した。これにより、教員が生徒に対して適切な指導を行うことができると考える。
- ・ **目的:** 教員の指導力を向上させる。教員が情報リテラシーの重要性を理解し、自らの授業に取り入れることで、生徒の学習効果を高める。



□学力向上

- ・ **事例:** 情報活用能力を育成する視点を取り入れることで、学力向上を図った。例えば、情報収集や分析のスキルを活用して、各教科の学習内容を深めるプロジェクトを実施した。数学の授業では、統計データを用いた問題解決を行い、理科の授業では、実験データの収集と分析を通じて科学的な探究を深めた。技術科の授業では、情報技術を活用したプロジェクトを通じて、プログラミングやデータ管理のスキルを身につけることをねらいとした。

目的: 情報活用能力の育成を通じて、各教科の学力を向上させる。生徒が情報を効果的に活用することで、学習内容の理解が深まり、学力向上に繋がるのではないかと考える。

【取組内容】情報活用能力育成のための包括的アプローチ②

□情報モラル教育

- ・ **事例:** 情報モラルに関する授業を定期的に行い、生徒にインターネット上での適切な行動やプライバシー保護、著作権の尊重について学ぶ機会を提供した。例えば、SNSの利用方法やネット上でのトラブル回避方法、弁護士発信による事例紹介等である。
- ・ **目的:** 生徒が安全かつ倫理的に情報を活用できるようにする。情報モラル教育を通じて、生徒はインターネット上での適切な行動を身につけ、トラブルを未然に防ぐ力を養う。



□生成AIの活用と理解

- ・ **事例:** 生成AI（例えば、文章生成AIや画像生成AI）の活用方法を授業に取り入れた。生徒が生成AIを使って情報を収集・分析する方法を学び、その限界や倫理的な問題についても理解を深めた。
- ・ **目的:** 生徒が最新の技術を理解し、適切に活用できるようにする。生成AIの活用を通じて、生徒は新しい技術の可能性と課題を理解し将来の情報社会での適応力を高める。

□評価とフィードバック

- ・ **事例:** 生徒の情報活用能力を評価し、適切なフィードバックを行った。評価の際には、情報の収集方法、分析の正確さ、発信の効果性などを総合的に判断した。例えば、プロジェクトの成果物やプレゼンテーションを評価し、具体的な改善点をフィードバックし系統的な指導を行った。
- ・ **目的:** 学習の進捗を確認し、さらなる成長を促す。評価とフィードバックを通じて、生徒は自らの情報活用スキルを客観的に見直し、次のステップに進むための具体的な指針を得ることができると考える。